

2. 情報教育に関するデータベース等の開発作成及び私立大学間の情報ネットワークの整備

2-1 ネットワークによる教育連携の実施・支援

教育改善のための議論を積極化し、問題解決に向けての全国的な協力体制が形成されるよう、大学を横断した教員連携によるサイバー・キャンパス・コンソーシアム（CCC）を再構築するため、本年度は以下の取り組みを行った。

（1）コンソーシアムの再構築

① 参加方法の見直し

関係教員がネットワークでオープンに参加できるよう、これまでの大学による登録制参加を廃止し、情報交流可能な全ての教員を対象に活動を展開することにした。そのため、授業にITを活用する教員をサイバーフィールド研究者と位置付け、本協会の調査回答者、従来のCCC参加教員、教育IT活用研究委員会委員などを当面の参加対象とする他、国公私立の全ての教員から参加申込を受け付けることにした。

② 活動内容の見直しと運営委員会の設置

教員による自由なディスカッションを通じて、コア・カリキュラム、IT活用を含めた教育方法、電子教材の作成、教育支援体制などについて共通理解を深めるとともに、学問分野別に優れたIT活用の授業をサイバー上で推薦・公開し、ファカルティ・ディベロップメント事例のアーカイブ化を通じて、教育業績としての教員の努力も併せて紹介することにした。

活動を活性化するため、本年度より、学問分野別にサイバー・キャンパス・コンソーシアム運営委員会（3名程度）を設置して、情報提供、ディスカッション等の促進を図ることにした。運営委員会の設置は、政治学、社会学、コミュニケーション関係学、国際関係学、電気通信工学、土木工学、数学、生物学、獣医・畜産学、看護学、美術、デザイン学、統計学、教育学、体育学の15学系で、情報系の運営委員会は18年度とした。また、教育IT活用研究委員会では委員の一部が運営委員を兼任し、18の運営委員会を設置している。

各学系グループの運営委員会にて、ディスカッションの方向性などについてネットワーク上で議論したところ、各学系とも学生の基礎学力の低下、授業改

善の難しさ、授業評価のあり方など様々な問題点が話題となり共通理解を深めた。15の運営委員会では、以下のようなテーマについてネットワーク上の情報交流を呼び掛ける予定としている。

C C C 学系別運営委員会における活動テーマの検討経緯

		問題点の指摘など	活動テーマ案
社会科学系	政治学	学生への動機付けが授業改善の中心課題だが、問題は、教室の中で行われている努力が教員への評価に結び付いていないことである。	<ul style="list-style-type: none"> 大学規模・教育現場の対応力を考慮したコア・カリキュラムの検討 長期的な評価に耐え得る授業改善のあり方の検討
	社会学	大人数講義でWeb掲示板でのコミュニケーションやミニ課題の提示など個々の学生に対応するには教員の負担が過大となり大変な苦労がある。	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークやワークショップによる目的達成型の授業、知的志向の向上を目指すグッドサンプル提示方の授業など、新しい教育スタイルの研究
	国際関係学	学生の現代史に関する知識不足を補うため、マルチメディアコンテンツを24時間利用可能な環境整備が不可欠である。	<ul style="list-style-type: none"> 歴史のポイントを数分間にまとめたビデオクリップなど、教材作成のための自由利用可能なコンテンツの整備
	コミュニケーション関係学	授業改善のためには、学生の授業評価に加えて教員間の評価、担当教職員の研修、産学連携などへの努力を教員の人事評価に結び付けることが重要である。	<ul style="list-style-type: none"> クラス規模・特性に対応可能なモデルシラバスの構築と、基礎科目などの学習方法、ステップアップの手法などの標準化に向けた試み
工学系	電気通信工学	学生と教員の世代間のマッチングが重要で、例えば、学生はインターネットでの資料収集には長けており、IT時代において教える側の対応も考えねばならない。	<ul style="list-style-type: none"> 授業用情報ポータルの共同構築 教える側と学ぶ側に一体感が生まれるような教育方法の検討
	土木工学	進度別クラスの開講などで基礎学力の補完に対応しているが、教員の負担が過重となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 実際の土木現場や地図などビジュアル情報の自由利用可能なデータベースの構築
理学系	数学	手取り足取り教える授業では教員の負担が従来の何倍にもなるが、大学の組織的な支援はない。個人指導への対応に限界があり、学生同士が教えあう仕組み作りが必要。	<ul style="list-style-type: none"> インストラクショナルデザインの考え方に基づくコア・カリキュラムの検討 授業のメタ知識、コンテンツのデータベースの構築
	生物学	学生の理解度に応じたきめ細かい対応を行うため、教卓から学生の回答が確認できるような環境整備が必要。	<ul style="list-style-type: none"> 著作権上の問題がない図版などの共同利用データベースの構築
農学系	獣医畜産学	多様な産業における応用例の紹介など、社会現場の状況を肌で感じ取れるような情報を入手し紹介する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 産学連携による現場・体験情報の取り入れを可能にする仕組み作り
保健系	看護学	学力低下以外にも、グループワークなどで人間関係を作る能力の低下などが気掛かりである。	<ul style="list-style-type: none"> 社会の現場情報や、生活者からの生の話題・意見を取り入れる仕組み作り
教育系	体育学	全学共通科目であっても、学科によって指導方針が異なるほか、教員の考え方の違いに大きく影響されるなどの問題がある。	<ul style="list-style-type: none"> 健康と食生活等のテーマについて、医療系など他大学と情報交換・交流できる仕組み作り
芸術系	美術	美術界に生きる方々の生の声を学生たちに聞かせたいが、遠隔地では招聘が難しい。	<ul style="list-style-type: none"> 各大学の芸術家による講演録画、トップアーティストによる授業録画などのアーカイブ化と共同利用 大学、教員の連携を越えた芸術界全体の現場を結ぶネットワークの構築
	デザイン学	学生は、講義では楽な授業を求める、実技では逆の傾向がある。クリエイターとして必要な基礎学力、数学的なセンスが低下しているが、強要すると学生の創作意欲が低下してしまう。	<ul style="list-style-type: none"> 創作意欲を失わせずに基礎学力の必要性を捉えることができるようなカリキュラムの構築 ネットワークで企業など社会現場の協力を得られる体制の構築 海外で活躍するデザイナーによる講演・制作発表のアーカイブ化、デザインコンテンツの共同利用ポータルの構築
その他	統計学	現在用いられている教科書はすべて統計数学あるいは数理統計学の入門書であり、学生の数学力が低下している現在では適応しなくなっている。	<ul style="list-style-type: none"> 欧米に伍する動機付け教材の共同開発

コア・カリキュラムの研究、シラバスの共同作成、授業用コンテンツの共有化などの提案があり、18年4月から運営委員会内での検討経緯をFD研究者に公開し、情報交流を深めるとともに、問題の共有を通じて本格的な改善のための議論を目指すことにしている。

③ ポータルサイトの再構築とサイバーFD研究者の登録

CCCのポータルサイトを自由参加型のフォーラムとするため賛助会員の協力を得て再構築を行い、平成18年2月までにディスカッションのための電子掲示板（BBS）とチャットルーム、授業事例アーカイブを設置した。授業事例アーカイブは、過去3年間に本協会の全国大会、教育方法研究発表会、短期大学会議などで発表された授業事例および機関誌の掲載記事を学問分野別のメタ情報から検索可能としたもので、18年3月の時点で360件が掲載されている。

サイバー・キャンパス・コンソーシアム（CCC）Webサイト

The CCC website features several key components:

- Information Exchange:** A forum for faculty development and teaching improvement.
- Course Archive:** A database of course materials from various universities.
- Faculty Registration:** A section for registering FD researchers.
- Navigation:** Includes links to the homepage, news, and other university websites.
- Log-in:** A user login area for faculty members.

ポータルサイトの再構築と並行してサイバーFD研究者の登録準備を進め、平成17年7月に参加対象となる加盟大学教員に参加登録を呼びかけた結果、承認を得た12,000名の方を登録することになった。FD研究者にはポータルサイト開設と同時に利用パスワードを配信した。ポータルサイトでの発言は公開され、誰でも参照可能としたが、発言にはパスワードを設けており、新規希望者はFD研究者に登録の上、参加いただくことにしている。

次年度には、ディスカッションを活性化するため、BBSに新規の発言があった場合に該当する学系のFD研究者に自動でメール通知する仕組みや、ネットフォーラムに対応可能な新しいTV会議システムの設置について、賛助会員の支援を得て実現することにしている。

サイバー・キャンパス・コンソーシアム（CCC）学問分野別参加教員数

人文科学系	1,985名	文学	156名		情報系	1,411名	情報専門科目、情報リテラシー、情報倫理など	1,411名
		外国語学	798名					
		心理学	324名					
		史学、地理学、哲学、文化関係学、人間関係学など	707名					
社会科学系	2,406名	法学	268名		農学系	310名	獣医・畜産学	95名
		政治学	103名				農芸工学・化学、林学・林産学、水産学など	
		経済学	547名					
		経営学・経営情報学	490名					
		会計学	140名		保健系	1,912名	医学	1,026名
		社会学	182名				歯学	
		社会福祉学	134名				薬学	
		国際関係学	88名				看護学	
		コミュニケーション関係学	98名				衛生、健康科学など	
		商学、環境情報学、政策関係学など	356名		生活家政系	347名	栄養・食物学	185名
工学系	1,511名	機械工学	374名				被服学	
		電気通信工学	388名				その他	
		土木工学	233名					
		建築学	200名		教育系	492名	教育学	261名
		経営工学	93名				体育学	
		金属工学、航空工学など	223名				教職課程など	
理学系	1,019名	数学	181名	芸術系	306名	美術	71名	合計：11,969名 (平成18年3月現在)
		物理学	252名				デザイン	
		化学(応用化学含む)	321名				音楽、映像制作など	
		生物学	183名	複合領域系	103名	統計学	93名	
		地学など	82名				教養系など	

（2）教育研究情報の共同購入事業

電子ジャーナル、データベースの導入が促進されるよう、版元との団体交渉による価格の低廉化と補助金の適正活用を目的として、16年度より教育研究情報大学共同購入機構を設置して対応を行っている。本年度は7月に幹事校会

議を行って活動状況と問題点を検討し、3月に、私立大学・短期大学の担当者による全体会議を開催した。

① 幹事校会議の開催

共同購入機構の幹事校34大学による通算4回目となる幹事校会議を17年7月22日に開催した。会議では、私立大学図書館コンソーシアム、医学図書館協会、薬学図書館協議会の参加校より、外国版元企業との団体交渉結果などの報告があったが、まだコンソーシアムで取り扱っていない国内で市販のデータベース等への対応を早急に検討する意見があり、課題となった。また、一部海外の版元による不合理な価格設定に対応するため、国立大学法人のコンソーシアムおよび外国大学などにも働きかけ、国際的な枠組みの中で価格交渉を行う体制作りの必要性が確認された。

② 全体会議の開催

通算2回目の全体会議を18年3月3日に早稲田大学で開催し、103大学、9短期大学より150名が参加した。全体会議は本協会の加盟、非加盟にかかわらず全ての私立大学・短期大学に案内した。会議では、私立大学図書館コンソーシアム、日本医学図書館協会、日本薬学図書館協議会が取り扱った17年度の実績について、価格低減の成果などの報告があった。また、幹事校会議で懸案となっていた国内のデータベースなどへの交渉については、18年度より本機構に新たなワークグループを設置して対応することとなり、中央大学、東海大学、法政大学、明治大学の4校が中心となって、国内新聞記事データベースの共同購入に向けた団体交渉を開始する旨の報告があった。なお、参加校の情報共有を促進するためのポータルサイトについては、議長校（早稲田大学、慶應義塾大学、東京慈恵会医科大学）を中心に機能の改善が進められ、次年度の早期に開設することになった。

（3）大学間教育情報交流システムの機能強化

教育に関する情報をネットワークを介して大学間で共有する交流システムは、現在、96大学、15短期大学が参加している。これまで協会を経由して情報を掲載してきたが、タイムリーに大学から直接情報を掲載できるようにするため、大学担当者が直接情報を更新できるようシステムの機能を強化した。